

奄美野生生物保護センター
季刊ニュースレター



Vol.9 No.2 (夏号)
通巻35号

発行・編集

奄美自然体験活動推進協議会

〒894-3104

鹿児島県大島郡大和村思勝551

奄美野生生物保護センター

TEL: 0997-55-8620 FAX: 0997-55-8621

E-mail: amami_rabbit@nifty.com

奄美の風だより

夏鳥の代表「アカショウビン」。全国に夏鳥として渡来しますが、奄美に渡来するのは亜種の「リュウキュウアカショウビン」です。奄美ではとても身近な鳥ですが、別名、方言を多くもっていることを最近知りました。そこで、みなさんにご紹介したいと思います。

平安時代には、「水恋鳥・水乞鳥（みづこひどり）」の呼び名があり、江戸時代前期から「^{あまごひどり}雨乞鳥」とも呼ばれるようになりました。

その他にも、^{あかひすい}赤翡翠・^{きんぎょどり}金魚鳥・^{とうがらしどり}唐辛子鳥・キョロロ・ゴッカル・クッカルなど地域によって様々な呼び名があります。

また、アカショウビンのペレット（食べたもののうち消化できなかった骨や毛を吐き出したもの）が、夏の暑さで腐敗してとても臭くなり、そこを通った人はあまりにも強い臭気のため頭が痛くなったり具合が悪くなることもあり、それが神様の仕業であるかのようなので、昔奄美では「^{かんどり}神鳥」とも呼ばれていました。

ちなみにカワセミも同じ理由で神鳥と呼ばれていたそうです。

昔はアカショウビンのヒナを捕まえてくると、親から「神様の鳥だから祟りがあるよ！戻しておいで！」と怒られたそうです。



リュウキュウアカショウビン



カワセミ

身近な存在ほど、新たな発見をするととても驚きます。また、新しい発見ができるように五感を研ぎすませ、奄美の生きものたちに接することができればなと思います。

(吉田)

参考文献 図説日本鳥名由来辞典（柏書房 編著：菅原浩、柿沢亮三）

奄美大島生きもの情報(2009年4月～7月に寄せられた情報の一部)



ミソゴイ

日 時：09.5.9 9:05
 発見場所：大和村
 状 況：林道上に赤っぽく、大きな鳥が立っていた。近寄って見ると、ミソゴイだと分かった。



ルリハコベ

日 時：09.4.3 15:00
 発見場所：大和村
 状 況：道脇に咲いていた。ヨーロッパ原産の帰化植物。



ツルラン

日 時：09.6.12 15:30
 発見場所：龍郷町(自然観察の森)
 状 況：森の中で咲いていた。名前の由来は白い花の中にある赤い部分をタンチョウツルの頭部に見立てたことによる。



アマミアオジョウカイ

日 時：09.4.30 14:30
 発見場所：宇検村
 状 況：落ち葉の中に潜ろうとしているところを発見。普段は花や葉の上で小さな昆虫を捕まえて食べていることが多い。



イシガケチョウ

日 時：09.4.30 10:30
 発見場所：奄美市
 状 況：林道上の干上がりかけた水たまりで吸水していた。



ベニツチカメムシ

日 時：09.5.13 15:40
 発見場所：奄美市住用町
 状 況：鮮やかな色のベニツチカメムシが集団で果の上にあった。



ヨツメオサソウムシ

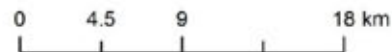
日 時：09.5.13 15:40
 発見場所：瀬戸内町
 状 況：咲き始めたアオノクマタケランの花の上にあった。

★ センター周辺の情報



アマミノコギリクワガタ

日 時：09.7.5 9:00
 状 況：センターの自動ドアの下にいた。挟まれそうだったので、他の場所に移動させた。



奄美自然ふれあい行事

イベント報告

夏休み子ども自然観察会①

「2009皆既日食 大島南部の子供達も、長雲峠にあつまれ〜!!」

主催：環境省奄美野生生物保護センター、奄美自然体験活動推進協議会、龍郷町教育委員会、奄美自然観察の森

共催：奄美市教育委員会（住用総合支所）、宇検村教育委員会、大和村教育委員会、瀬戸内町教育委員会

開催日：平成21年7月22日（水）

[報告：河内淑恵（アクティブレンジャー）]

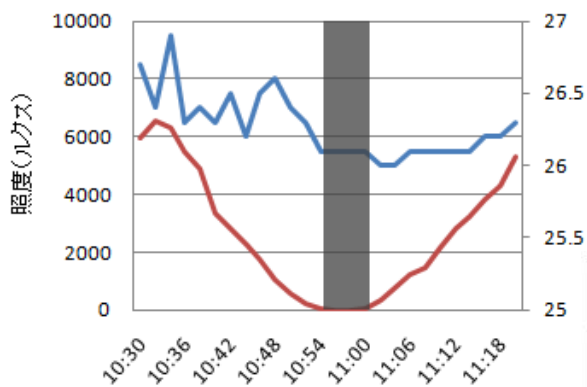
奄美野生生物保護センターでは、奄美大島の市町村と協力して皆既日食を観測するイベントを開催しました。同じ島にしながら、皆既日食を見ることができない奄美大島南部に住んでいる子どもたちにも皆既日食を体験してもらおうという企画です。参加人数は100人を超える子どもたちが参加してくれました。

当日は朝から奄美大島北部にある龍郷町の「奄美自然観察の森」に集合して皆既日食について勉強しました。奄美野生生物保護センターのスタッフが「皆既日食の時の動物の変化」についてお話ししました。

皆既日食が起こると太陽からの光は遮られ、急に夜になったように暗くなります。そのとき、生きものはどのような反応をするのでしょうか。

奄美大島には固有種が多く生息しています。その中でも自然観察の森で観察できるルリカケスやセミたちはどんな行動をするのか、2カ所に分かれて観察を行いました。太陽が半分ほど月に隠れる午前10時30分から観察を開始し、2分ごとに気温・照度・聞こえたルリカケスの声の回数・聞こえたセミたちの声の多さを記録していきました。

結果は下の表のようになりました。皆既状態の時を灰色、ルリカケスやセミがたち鳴いていた時間を青色で示しています。1（ああsdfk h b



時間	10:30	10:40	10:50	11:00	11:10
ルリカケス			■	■	■
クロイワニイニイ		■		■	■
ヒメハルゼミ			■	■	

渡邊アクティブレンジャーが担当した場所では、皆既日食の始まる5分ほど前の午前10時50分から午前10時56分ごろまで、なんとそれまで鳴いていなかったヒメハルゼミが鳴きだしたそうです。太陽が再び出てきた午前10時58分には鳴き止んでいるのが興味深い結果となりました。

暗くなったことで生きものたちが鳴き出したのか、他の要因があるのかは不明ですが、人間も落ち着かなくなる皆既日食に生きものたちも反応したのかも知れません。

空の変化



肝心の皆既日食の時間帯は雲が多く、ダイヤモンドリングは見ることはできませんでしたが、辺りが急に暗くなる状態を体験できました。また、皆既日食になった瞬間びっくりするほどの突風が吹き、鳥肌が立つほどでした。天気はあまりよくありませんでしたが、この瞬間に奄美大島にいられたことにとっても感動しました。

夏休み子ども自然観察会②

役勝川の生きもの観察会 ～川と海のつながり～

主催：環境省奄美野生生物保護センター、奄美自然体験活動推進協議会

開催日：平成21年8月10日（月）

〔報告：渡邊環（アクティブレンジャー）〕

観察会の数日前から不安定な天気が続き、中止になるかもしれないと半ば諦めていました。しかし、当日は晴れ！ 水量は少し多かったですが観察会を行うには問題のない条件でした。

まず観察会で川に入る前に、生きものが川と海など違う場所を行き来する「回遊」という行動や、奄美の川の生きものの代表「リュウキュウアユ」について簡単なレクチャーを行いました。

その後、役勝川に移動し3つのチームに分かれ、生きものの探索をしました。子どもたちはもちろん、大人も夢中になって生きものを捕まえていました。

捕まえた生きものはチームごとに調べ、回遊するのかなど生きものの生態も紹介しました。

多くの生きものが川と海を回遊しているということを知ること、子どもたちが川と海のつながりを身近に感じられたのではないかと思います。

最後に、捕まえた生きものたちにみんなで「ありがとう」と「さようなら」を言って、もといた場所に放して観察会を終えました。



奄美で見られる野生動植物

ミフクラギ



キョウチクトウ科
海岸近くに生える常
緑小高木。果実は無
毒であるが種子は有
毒。
分布：奄美大島以南
花期：6～10月

コマツナギ



マメ科
草に見えるが、小低
木に分類される。馬
(駒)を繋いでおけ
るほど丈夫だとい
うので駒繋ぎとい
う。
分布：本州以南
花期：7月～9月

オヒルギ



ヒルギ科
マングローブに生え
る常緑高木で、高さ
10m。
分布：奄美大島以南
花期：5月～10月

イボタクサギ



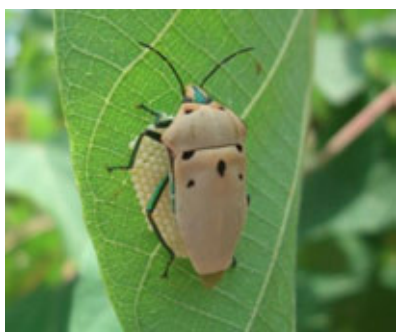
クマツツラ科
マングローブの後背
湿地や砂浜に生える
半つる性の低木。
分布：種子島・トカ
ラ列島以南
花期：4月～12月

アマミルリモントンボ



モノサシトンボ科
細身の大型イトトンボ。体色は、オスが美しい青白
色、メスが黄緑色。まれに、黄緑色のオス、青色の
メスものもいる。
生息環境：山間の森林にかこまれた渓流域
分布：奄美大島・徳之島
成虫の出現時期：5月中旬～10月中旬

アカギカメムシ



キンカメムシ科
卵を保護するカメムシとして知られ、メスの成虫は
アカメガシワの葉に産卵し、卵が孵化するまで抱卵
しつづける。幼虫はアカメガシワの実の汁をすって
育つ。8～10月にアカメガシワなどの木に大きな
集団をつくる。
分布：南西諸島

写真 奄美野生生物保護センター

参考文献 琉球弧 野山の花 (南方新社 写真と文：片野田逸郎 監修：大野照良)

南九州里の植物 (南方新書 監修：初島住彦 写真と文：川原勝征)

原色 日本トンボ幼虫・成虫大図鑑 (北海道大学図書刊行会 発行者：菅野富夫)

日本原色カメムシ図鑑 (全国農村教育協会 監修：友国雅章) 沖縄の身近な昆虫図鑑 (沖縄出版 編著：湊和雄)

センターと協議会からの活動報告

わきゃあまみ® アマミノクロウサギブック

平成 20 年度協議会事業としてわきゃあまみ®「アマミノクロウサギブック」を制作しました。最新の調査結果などから、アマミノクロウサギの現状をわかりやすく解説した一冊です。奄美群島の全小学校の児童に配布しました。
若干の余部がありますので、ご希望の方はご連絡下さい。



奄美野生生物保護センターからのお知らせ

4月1日付けでアクティブレンジャー（自然保護官補佐）が
永井 弓子 から 河内 淑恵（こうち よしえ）に代わりました



4月1日付けで奄美野生生物保護センターのアクティブレンジャーになった河内淑恵です。

出身は奈良県で、大学を出てすぐに奄美大島に来ました。奄美大島は憧れの土地だったので、毎日充実した日々をおくっています。また、山に入って、今まで見る事がなかった動植物に出会えることがとても楽しいです。アマミノクロウサギを初めて見たときは本当に感動しました。この自然が豊かで、大好きな動植物がたくさん暮らす奄美大島の自然を守

っていくために少しでも尽力できたらと思います。まだまだ分からないことだらけですが、頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

編集後記

こんなにも奄美の夏は暑かったでしょうか？ 照りつける日差しは、暑いというより痛いです。休日の昼間は動く気が出ないです。扇風機にあたって昼寝が一番！ 日が傾いてから元気が出てくるので、やり残すことが多い休日です…。